

長期戦略:テーマ 「学修支援の充実」

提出日 2022年 8月 24日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	林教務機構長 (教務機構長)	実施計画の 担当部署	教務機構
-----------------------	-------------------	---------------	------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(13)-① ライティングセンターの設置	2020年度	2022年度	必要なし	不要
内容 本学学生の学術的な文章作成能力(以下、ライティングスキル)の修得を支援するための各種施策を実施し、論理的思考力や表現能力を身に付けた「自立した書き手」を育成するために、教務機構の下に「ライティングセンター」を設置する。主なセンターの事業として、以下の2点を挙げる。 <ol style="list-style-type: none"> ライティングスキルを育成する授業科目の企画・立案・提供 <ol style="list-style-type: none"> 全学科目としての学部学生向け授業科目、②学部と連携した学部学生向け授業科目、③大学院学生向け授業科目 ライティングスキル修得を支援するための各種施策の企画・立案・実行 <ol style="list-style-type: none"> 学部学生向け対面指導、②各種セミナーの実施、③教育指導員養成研修の実施、等 また、上記の事業を達成するため、センターに任期に定めのある教員及び助手を数名配置する。配置人数は、センターが提供する科目及びクラス数、対面指導のセッション数、教育指導員の採用者数、センターの拠点数、ニーズ等を勘案して、大学・学院と相談の上、決定する。なお、センターで対面指導を実施するために、本学大学院学生を教育指導員として配置する。なお、教育指導員は主に博士課程後期課程学生及び博士課程後期課程修了者からの採用を想定している。センターでは、授業科目での学びを「基礎」、対面指導を「応用」とする学びの循環を発生させることで相乗的な効果を高めていく観点から、センターの開設にあたっては正課科目と連携し、必要に応じて担当教員から学生に対面指導の利用を促す仕組みを構築する。また、対面指導を担う教育指導員を養成するために、大学院学生向けの授業科目も新たに開設することで、大学院学生のライティングスキルも向上させるとともに、教育指導員として学部学生を指導することで教育経験を積む機会にも繋がるなど、複合的な相乗効果を狙う。				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	対面指導で実施されたセッション数・稼働率・満足度	$\text{稼働セッション数(延べ)} \cdot \text{稼働率(稼働セッション} \div \text{総セッション)} \cdot \text{満足度(アンケートで集計)} / \text{年}$		
指標2	学部生向け科目の履修者数・充足率・満足度	$\text{学部学生向け科目の履修者数} \cdot \text{充足率(履修者数} \div \text{履修定員)} \cdot \text{満足度(授業調査で集計)} / \text{年}$		
指標3	大学院生向け科目の履修者数・充足率	$\text{大学院生向け科目の履修者数} \cdot \text{充足率(履修者数} \div \text{履修定員)} / \text{年}$		

目標1<指標1>対面指導で実施されたセッション数・稼働率・満足度

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	—	セッション数:700回 稼働率:30% 満足度:4.2	セッション数:1000回 稼働率:40% 満足度:4.4	セッション数:1200回 稼働率:50% 満足度:4.5	セッション数:1300回 稼働率:55% 満足度:4.5	セッション数:1400回 稼働率:60% 満足度:4.5
実績	—	セッション数:573回 稼働率:32.4% (予約率:34.3%) 満足度:4.8				

目標2<指標2>学部生向け科目の充足率・履修者数・満足度

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	充足率:60% 履修者数:324名 満足度:4.2	充足率:70% 履修者数:490名 満足度:4.4	充足率:80% 履修者数:560名 満足度:4.5	充足率:90% 履修者数630名 満足度:4.6	充足率:95% 履修者数680名 満足度:4.6	充足率:100% 履修者数720名 満足度:4.6
実績	充足率:100% 履修者数:522名 満足度:4.6	充足率:81.0% 履修者数:583名 満足度:4.7				

目標3<指標3>大学院生向け科目の充足率・履修者数

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
目標	充足率:60% 履修者数:24名	充足率:70% 履修者数:56名	充足率:80% 履修者数:64名	充足率:90% 履修者数:72名	充足率:90% 履修者数:72名	充足率:90% 履修者数:72名
実績	充足率:92.5% 履修者数:37名	充足率:66.3% 履修者数:53名				

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ライティングサポート体制の整備	策定段階	・ライティングセンター構 想検討、構想案策定・確 定 ・ライティングセンター教 員人事	・ライティングセンター教 員人事 ・センター助手、スタッフ	ライティングセンター対 面指導開始	ライティングセンター 運用	ライティングセンター 運用体制見直し(セッシ ョン数、拠点数)
	2023年3月 末段階	同上	上記に加え、 教育指導員指導室・教 材開発室の設置	新型コロナウイルスの 影響を受け、オンライン での指導を開始	ライティングセンター 運用体制見直し(セッシ ョン数、拠点数)	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	ライティングセンター運 用体制拡充	ライティングセンター運 用	ライティングセンター運 用	ライティングセンター 運用体制見直し	
	2023年3月 末段階	—	—	—	—	
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
科目開講 教育指導員養成	策定段階	・学部・大学院の正課科 目改編・新設	・学部・大学院の正課科 目の開講開始 ・教育指導員養成研修 開始	・学部・大学院の正課科 目の拡充 ・教育指導員採用開始、 養成研修実施	(以降は、ニーズ等によ り拡充を検討) ・教育指導員採用、養成 研修実施	(以降は、ニーズ等によ り拡充を検討) ・教育指導員採用拡充 検討、養成研修実施
	2023年3月 末段階	同上	上記に加え、 ・学部科目対象のLAの 採用開始	教育指導員の研修につ いては、対面ではなくオ ンラインを想定し実施	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	(以降は、ニーズ等によ り拡充を検討) ・教育指導員採用拡充、 養成研修実施	(以降は、ニーズ等によ り拡充を検討) ・教育指導員採用、養成 研修実施	(以降は、ニーズ等によ り拡充を検討) ・教育指導員採用、養成 研修実施	(以降は、ニーズ等によ り拡充を検討) ・教育指導員採用拡充 検討、養成研修実施	
	2023年3月 末段階	—	—	—	—	

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度 承認

非公開

人員・人件費 単位:万円

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度 承認

非公開

経費 単位:万円

2024年度

2025年度

2026年度

左記以降

非公開

人員・人件費 単位:万円	2024 年度	2025 年度	2026 年度	左記以降
非公開				

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	ライティングセンター設置構想 WG を立ち上げ、モデルとなる早稲田大学に視察に行き、設置構想案および規程案を作成した。教務委員会、大学院教務学生委員会の議を経て、7月の学部長会、9月の大学評議会、理事会において、ライティングセンターの設置構想案および規程案について承認が得られた。教員については教育特別任期制教員の資格で2名募集した結果、21名の応募があり、厳正な選考の結果、2名採用した。センターの設置場所については、大学図書館地下1階にあるアルカディア（喫茶）の跡地を活用する予定で2020年夏に工事予定である。
2020 年度	センターでは2020年度より、全学科目としての学士課程学生向け授業科目、大学院生向け授業科目の提供を開始した。学士課程学生向け科目に関しては、年間では28クラス（1クラス20名定員）開講しており、定員（560名）に対して約3.1倍の申込（1754名）があり、全申込者の内、74%（1306名）が1年生であった。また、秋学期にはセンターの拡充のために、任期制教員Cを1名、2021年度から開始予定の学士課程学生向け対面指導のために契約助手2名の募集・選考を行い、採用者を決定した。
2021 年度	新たなスタッフとして、2021年4月より野瀬由季子（任期制教員C）、渡橋恭子（契約助手）、大福聡平（契約助手）を迎えた。また同時期に大学図書館地下一階にライティングセンターをオープンし、対面指導をスタートした。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初予定していた対面ではなく、オンラインでの指導となっているが、教育指導員への研修も無事に完了し、順調に運営できている。科目運営については、2020年度に引き続き、学部科目については履修枠に対して応募者がオーバーしており、充足率は100%となっている。大学院科目については、社会人からの希望が多いこともあり、集中講義に申込みが多く偏る形になっている。2021年11月より、本来の対面指導（対面でのセッション）を実施することができた。2021年秋学期以降、学生への情報伝達については教学webサービスからkwicに移行された事で、学生への周知不足が懸念されたため、LINEを利用した広報をスタートさせた。
2022 年度	2021年度末で、契約助手1名が退職したため、後任の契約助手1名を採用。2022年度より、対面授業が再開されており、2022年4月から2ブース体制、6月からは3ブース体制で対面指導を実施。
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019年度	新規採用予定の任期制教員とともに新設科目の設計および科目運営上の諸課題への対応が必要となる見込みである。また、教育指導員の確保や対面指導上の諸課題について検討する必要がある。
2020年度	学士課程学生向け授業科目において、全学的な基盤教育の改革を見据え、履修者拡大を目的としたオンライン・オンデマンド化を検討することを視野に入れているが、2020年6月にライティングセンター教育部会で議論した結果、現在はコロナ禍で対面授業が実施できていないため、2021年度については、クラスを拡充した上で対面授業として開講することが決定した。対面指導については、2023年より神戸三田、西宮聖和キャンパスへの展開を予定していたが、学内からのニーズにより、1年早めて2022年度より実施できるよう検討を進める必要がある。
2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、授業・対面指導ともにオンラインでの実施を余儀なくされた。そのため、対面指導についてはオンライン指導となり、キャンパス問わずに受講できることとなったため、当初の予定から早め、他キャンパスの学生も含めた指導を行っている。この点については、ポストコロナでもオンライン指導を継続するのか、それとも、各キャンパスに指導用ブースを設置するのか、今後、検討を進めていきたい。また、科目運営についても同様であり、オンライン授業を実施したことで、オンデマンド授業の検討を促進できる可能性があるため、2022年度以降の実現に向けてセンター内で検討を進めていく予定である。
2022年度	2022年度から対面授業が再開された。ライティングセンターにおいても、本来の対面指導（対面によるセッション）を実施しているが、他キャンパス生等、希望すれば、オンラインでのセッションも継続して実施している。また、特に三田キャンパスへの展開として、三田キャンパス所属のクレセントチューター向けのライティングスキル指導に関する研修を実施した。クレセントチューターがレポート執筆に関する相談を受ける際に、より効果的なアドバイスができるように、レポート執筆の基礎的なスキルに関する内容であった。今後も情報交換をしながら、三田キャンパスの学生向け支援策について検討を続ける。 科目運営については、学部科目においては、春3クラス（全18クラス中）、秋6クラス（全18クラス）、オンデマンド授業と対面を組み合わせたハイブリッド授業を実施。受講生へのアンケート等を通じて、学生の理解度を確認した上で、次年度のハイブリッドクラス数の設定の検討をすすめる。大学院科目においては、ハイブリット形式の授業は実施していない（集中講義含み全4クラス）。
2023年度	
2024年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2019年度	ライティングセンターの設置を認めます。 ライティングセンターの設置に伴う備品費用は、保留としますが、ライティングセンター改修工事費用が定まった段階で、将来構想推進WGでの承認を得た上で、予算外申請してください。 ライティングスキル育成のための授業担当および対面指導担当の教育特別任期制教員各1名の配置を認めます。 専任職員1名についても配置する方向とし、人事部にて対応します。 また、ライティングセンター運営のための役職手当を認めますが、運用経費についてはガイド内で対応してください。
2020年度	ライティングセンター運営に関するLA、教育指導員、役職者手当を認めます。なお、運用経費については、一般事業費ガイド予算で対応してください。 教育特別任期制教員2名および専任職員1名の継続配置に加え、対面指導が始まることによる任期制教員C1名、契約助手2名の配置を認めます。 アルバイト職員については、新規に2名分認めます。

2021 年度	ライティングセンター運営に関する LA、教育指導員、役職者手当を認めます。 教育特別任期制教員 2 名、任期制教員 C1 名、契約助手 2 名、専任職員 1 名およびアルバイト職員 2 名の継続配置を認めます。 契約助手 1 名およびアルバイト職員 1 名の配置については、KSC での運営詳細を定めた段階で、将来構想推進 WG にて判断します。
2022 年度	ライティングセンターにおける科目提供および個別指導の運営に必要な、教育特別任期制教員 2 名、任期制教員 C1 名、助手 2 名、専任職員 1 名、アルバイト職員 2 名、役職手当および教育指導員・LA 費等の継続を認めます。
2023 年度	
2024 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ライティングセンターを設置し、学部と大学院にてライティング能力向上のための授業科目を新設した。 LA を雇用することにより、より丁寧な指導を行うことで、基礎的なライティングスキルの向上を狙う。 オンライン型での実施と対面授業型での実施とを比較検証する必要がある。 大学院生を「教育指導員」として、対面指導に活用する仕組みを構築することができた。 	<p style="text-align: center;">継続</p> <p style="text-align: center;">・ 廃止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ライティングセンターの活用状況の分析 ライティング科目におけるオンデマンド授業化の推進 センターと学部との連携強化策の検討 教育指導員等の質向上に向けた研修プログラムの確立

【フェーズ II (2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<p style="text-align: center;">継続</p> <p style="text-align: center;">・ 廃止</p>	